

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・4年

氏名: 平川裕馬

授業科目名	国際森林論
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ドイツの森林を構成する主な樹種は、ブナ、トウヒ、モミの三種であり択伐林施業を中心とする森林管理を行っている。また近年の気候変動により、対応できない樹種は代替種に変換する考え方があるが、以前の生態系が新しい樹種によって変化するリスクもあり非常にデリケートな問題であると感じた。キクイムシによる被害もあり、除去する方法が確立しておらず、薬剤処理も認められていないことから、完全除去は難しい。シュヴァルツヴァルト国立公園では野生鳥獣管理について学び、人の手を加えるエリアは最小限にして、常に中立の立場でいることが大事だそうだった。また、ドイツ国内では狩猟文化が活発でハンターは増加しているという。日本では真逆の現象でとても驚いた。生産現場については自然保護を重要視し、林道は最小限に、生産と自然保護のバランスをとる。演習林ではその地域の歴史を交えて森林がどう利用されてきたのかを学んだ。実際に検土杖を使って土壌を調べたり、将来木のために周りの木をどうするかを考えた。新しい発見ばかりの研修だった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>自分自身初のヨーロッパ、ドイツだったので少し不安だったが、英語が難なく通じることや食べ物がおいしかったことで安心できた。フランクフルトには国際空港があることもあり、人は多く人種も様々であった。決して治安がいい町とは言いきれないが、異文化を体験するという意味では非常に良い体験になった。ドイツ研修の拠点となったロッテンブルクでの生活は非常に快適だった。自然と調和しているような美しい景観を見ることができ、町並みは木組み家屋や店舗が立ち並び、棟梁の家など歴史的建造物も残っていた。穏やかな空気が漂い、人々は親切であった。ドイツといえばビールやワインなどお酒が有名なので店やスーパーではビールを購入し飲んだ。とても飲みやすく美味しかった。日本でもネット通販でドイツビールが購入できるそうなので今度また飲んでみようと思った。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>森林、林業に対する考え方が変化したと感じる。以前は所属研究室の影響もあり、自然保護に関する考えが大部分を占めていた。しかし択伐林施業や気候変動による代替種の提案・分析、狩猟などありとあらゆる方面から森林をみつめ、自然とバランスを取りながら常に中立の立場で持続的な森林管理を行っていく必要があると感じた。また、今回の研修に協力してくれたロッテンブルク林業大学の学長および先生方、現地フォレスターの方々、その他通訳やプレゼンをしてくださった方々のそれぞれの森林・林業に対する思いや考え方を受け取るとともに、その真摯な姿に感銘を受け、より一層森林科学の学習に励みたいと思う。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回のドイツ研修を終えて、日本とは異なる林業体系はもちろん、異国の文化を学ぶことは非常に楽しく、人生において大きな経験となることを実感した。今後は海外に行くことにより積極的になり、英語をより理解できるように勉強したい。また今回の経験を家族や友人に話し、ドイツの森林や文化について知ってもらいたい。残り少ない学生生活だが、卒業論文の研究・執筆により一層力を入れ、上記の通り英語の勉強も少しずつ始めていく。卒業後は内定先の木材会社に勤める予定なので今回の研修で学んだことを活かして、日本の林業の活性化に貢献する一員になることを目標に日々頑張っていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・4年

氏名: 永利優以子

授業科目名	国際森林論
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修全体を通して、ドイツの林業のやり方と将来の森林像について学んだ。長い時間をかけて木を育て、半永久的に使える立派な道を入れ、大型の林業機械で伐採を行っていきやり方を勉強することができた。また、気候変動に対応した森づくりへの挑戦を学ぶことも出来た。ドイツのやり方がそのまま日本に应用できるか分からないが、長持ちする林道の作り方や、気候変動への対応の仕方はすごく参考になるものがあると感じた。特に気候変動で日本においてスギが育たなくなった場合、スギが人工林のほとんどを占める現状はとても危ないように思えた。新たな育成樹種の模索や複層林施業の事件をさらに本格的に行い、未来に備える必要があると感じた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>ドイツは環境大国であり、環境に対する意識がとても高いという印象を持っていたが、ドイツでよく目にした光景は路上喫煙だった。喫煙所以外の場所で副流煙などお構いなしに煙草を吸っていた。自分が想像していたドイツとはかけ離れた光景だった。人の話を聞くだけでは分からなかった実態がそこにはあり、自分の目で見て感じることの大切さを強く感じた研修となった。</p> <p>また、ドイツの人たちは時間を大切にしており、夜の時間帯や土日は多くのお店が閉店していた。24時間365日営業のお店もあるような日本とは全く違い、夜の街はとても静かだった。生活の便利さと豊かさはどちらが大切で、どんな生活が幸せなのかを考えるきっかけを貰った。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>気候変動に関連した研修が変化と成長をもたらしてくれたと思う。気候変動の影響を実生活では感じていたが、林業という視点と合わせて考えることは出来ていなかった。しかし、気候変動に対応するために、育てる樹種や植える場所の検討を行っているドイツのやり方を勉強して、もっと真剣に気候変動と向き合う必要があると感じた。</p> <p>また、今までは木を植えてから伐採できるようになる約50年のスパンで森について考えれば良いと思っていたが、研修を通して、100年200年先という長い視野を持った森林経営の必要性に理解が及ぶようになった。研修を通して、日本の森の未来について自分なりに深く考えられるようになった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>森林と関わりのあるイベントに積極的に参加したいと思っている。研修の最中に森の中を散歩するドイツの方々を見かけることが多々あった。ドイツの方々にとって森林は、休日に計画を立てて行く場所ではなく、仕事帰りにふらっと寄るぐらゐの身近な存在だと知った。日本においても森林に興味を持ってもらうためには、まず森林との距離を縮めていくことが必要だと思う。森林を勉強した者としてそういった取り組みに関わりたい。また、知識を風化させないために、大学を卒業した後も森林に関する勉強を続けたい。機会があればドイツ以外の国の林業も現地に行って勉強したい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・4年

氏名: 石塚敬人

授業科目名	国際森林論
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの森林の主要な構成樹種とその割合 ・ドイツの森林において気候変動が今後どういった影響を及ぼすのか、それに対して現段階ではどのような対策をしているのかといったこと ・キクイムシによる被害と対処方法、それによる木材価値の変動 ・木材生産に用いる機械とそれを運用する上で森林への負荷を軽減するためにどのような対策を行っているのか ・国立公園における野生動物の保護管理 ・ドイツの森林官に求められる知識や資格とその仕事内容 ・ドイツにおける狩猟の特徴とそれに用いる銃と罠の見学 ・狩猟を行った後の獲物の解体方法と食肉加工への流れ ・枝打ちをしない自然の力を利用した無節材の生産方法 	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>まず、ドイツで見学した森林は針葉樹がほとんどなく、広葉樹ばかりであったため、鹿児島では普段目にしない様々な樹種を見学することができ、葉の形や手触りなどの違い、葉の見分け方を学ぶことが出来た。</p> <p>また、日本ではキクイムシ対策としては薬剤を空中から散布したり、樹幹注入を行ったりすることが挙げられるが、ドイツでは空気が乾燥しているため、樹皮を剥いておくだけで侵入したキクイムシが2~3日で死滅するということが、日本との違いというものを強く感じた出来事であった。</p> <p>そして、実習が進むたびにドイツにおける森林官の専門性の高さを実感するとともに、根本の森林に対する意識の違いを強く感じた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ドイツで講義をして下さった先生方や、実際に現場を案内して下さったり、機械を見せて下さったりした方々から、「(この地域では)こういった問題があるけど、あなたが住んでいるところではどう? あなたならこの問題にどう対処する?」といった質問や、「日本の現場はどうなっている? 日本の機械と比べてどんな違いがある?」といったことを聞かれた際に、返答に言い淀んでしまったり、質問されたことに対する知識がなくて答えられなかったりしたことから、そもそも自分は日本の林業に対する十分な知識すら身につけていないということを痛感することができた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ドイツと日本では、気候や地面の硬さ、植生の違いといった自然的な差異と、人々の森林に対する意識や距離感の違いといった文化的な差異があるため、今回ドイツで見た先進的な林業技術や文化を日本にそのまま取り入れることは困難であると考え、その技術や文化が上手く日本に馴染むように変化させながら導入しなければならないと考えた。そのために、まずはもう一度日本の林業や森林についての基礎的な知識を勉強し直し、それらについて聞かれた際に自信をもって答えられるようになったうえで、日本の森林や林業にとって最適な形の林業技術や文化を形成していきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・4年

氏名: 寺下文貴

授業科目名	国際森林論
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の研修では、ドイツにおける林業、森林整備、環境、文化について、現地の大学関係者や、実際に現場で活躍している人から話を聞いたり実物を見学したりすることによって学習を行った。私は現在、日本国内におけるニホンジカの管理について研究を行なっているため、ドイツの狩猟文化や獣害管理、生態系の仕組みなどについての学習内容が最も興味深く、日本との違いを発見できたことが大きな成果であった。特に狩猟を行う理由や狩猟形態などは日本と大きく異なり、ドイツでのハンティングは趣味的に行われる意味合いが強い。また、林業についても、森林管理の歴史の違いによる林相の違いなどについて、非常に興味深く感じた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>ドイツでは私生活と仕事の切り分けがしっかりできているイメージがあったが、それは実際に生活してみてそのように感じられた。日曜日に多くの店が閉まるということに関しては、そのようなことがあまりない日本に長く住んでいたため多少の戸惑いを感じたが、慣れれば大して問題にもならないと思った。また、現地での生活を通して一番感じたのは、「ドイツは環境大国である」と日本でよく言われることは、そこまで信用ならないものだという事である。決して批判しているわけではないが、街中でのごみの量、プラスチックの利用量など、日本でよく取り上げられる環境問題の根源になりうるものの利用については日本と大差ないように感じられた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の研修では現地の関係者の多くが英語で解説をして下さったが、これまで読み書きばかりの英語学習をしていたため、うまく聞き取ることのできない部分が多々あった。観光ならまだしも今回は学習のために話を聞いていたため、聞きたいことをうまく質問できなかったり聞き取れなかったりしたのは非常に悔しく感じた。向上心を生むきっかけになったことが私の成長の一つであるように思う。また、生活することに関しては文化や言語の違いがあるにしろ、自分が情報を得る意欲次第で意外とどうとでもなることが分かった。これに関しては日本国内の生活や学習でも言えることだと思う。今後の研究でも忘れずにしたい。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>大学では意欲的に学習を行い、自分から多くの行動を起こすことが重要であると感じてはいたが、この研修を通してそれを再確認することができ、これまでの私自身を顧みる良い機会となった。研究においてそれは最も重要であると感じるため、それを常に忘れず行動していきたい。</p> <p>また、地域社会の発展に貢献するには、地域住民とのコミュニケーションが不可欠である。今回の研修で情報を得る力、興味を持ったことは自ら進んで学習するという力を得られたため、今後生かしていきたい。</p> <p>また、海外でなくとも語学能力が必要となる場面は多く存在するため、英語の学習は継続して進めたいと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・4年

氏名: 横山雅大

授業科目名	国際森林論
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>9月19日からの1週間、ロッテンブルク林業大学の教員や現地のフォレスターの方から演習林や州有林、国立公園などを案内していただき、ドイツの森林の特徴や森林経営の仕方、抱えている問題についての解説をしていただきました。自分はドイツに生息する野生動物とそれに対する人々の関わり方について興味を持っていたため、国立公園の資料館見学やハンターによる狩りのデモンストレーション等の学習を通して、木材を生産することにとどまらない、様々な野生動物との共存を目指した幅広い林業のあり方を知ることができ、とても良い経験になりました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>パン中心の食生活や道路の右通行など、日本の生活では見られないものが多くありましたが、なかでも私がドイツでの生活で驚いたのは日曜日に働いている人が少ないということです。ホテルの近くにあったスーパーマーケットも営業しておらず、町全体が静かな印象を受けました。話を聞くと、ドイツでは日曜日は「家族と過ごす時間」という認識があり、ガソリンスタンドやレストランなど一部を除く施設の営業を禁ずる日曜閉店法という法律もあるのだそうです。コンビニに行けば24時間年中買い物ができる日本との違いに不便を感じる一方で、働き手やその家族のことが考えられた町の仕組みは素敵だと思いました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ドイツでの研修を終えて最も変化があったと感じる部分は様々な要素から森林を見ることができる視野の広さです。研修の中で育林や伐採、管理など様々な林業の現場を見ることができました。日本でも似た内容の施業は行われているのだと思いますが、より大規模のものを、何よりも実際に見ることができたのは貴重な経験でした。目的の樹木を育てるために成長の手助けのとして他の樹種を育てるといった工夫や自然をなるべく影響を与えないための林道計画など、作業一つとっても様々な要素を考慮していかなければならないことを知り、林業の奥深さを再確認しました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修を通して私が地域のために取り組んでいきたいことは「森林を人々にとってより身近な存在にする」ことです。年々林業従事者が減る日本とは対照的に、ドイツでは森林官は人気の職業で、ハンターの免許を取得する若者なども年々増加しているそうです。その理由として、ドイツの学校では森林を用いた授業が頻繁に行われる、休日を森林で過ごす家庭が多くあるなど、ドイツの人々にとって森林が身近な存在であるということをロッテンブルク大学の教授から伺いました。これをうけ、森林が国土の多くを占める日本でこそ、森林に対する関心を広くもてもらい、より身近に感じてもらう必要があると感じました。</p>	